



上峰町立上峰中学校だより

# ちんぜい

No.11

発行日：令和8年3月19日

発行者（文責）：校長 永田康子

学校教育目標：心豊かにたくましく生きる生徒の育成 -自ら考え、判断し、行動する中学校生活を通して-  
生徒会スローガン：オリジナル～全員の個性が輝く学校へ～

## 心に残る卒業式



先日、本校の卒業式を挙行了いたしました。当日は多くの保護者の皆様にご出席いただき、温かい雰囲気の中で三年生の門出を祝うことができました。心より感謝申し上げます。

卒業式当日、落ち着いた態度で式に臨む姿や、仲間と過ごした時間を大切にすまなごしからは、この三年間の成長がはっきりと感じられました。また、在校生も先輩の門出を心から祝おうとする気持ちを込めて式に臨み、会場には温かい空気が流れていました。卒業式は、生徒にとって大きな節目の行事ですが、同時に保護者の皆様にとっても、わが子の成長を実感される特別な時間であったことと思います。入学から今日まで、嬉しいこともあれば、悩みや心配もあったかもしれません。そのすべての時間が、生徒たちをここまで成長させてきたのだと感じています。学校生活は、決して学校だけで成り立つものではありません。日々の生活の中で子どもたちを支え、見守り続けてくださった保護者の皆様の存在があってこそ、生徒たちは安心して学校生活を送り、成長していくことができます。

卒業生はこれから、それぞれの新しい道へと進んでいきます。中学校での経験や仲間との思い出を胸に、自分らしく歩いていってくれることを願っています。そして、上峰中学校で過ごした三年間が、生徒たちのこれからの人生を支える大切な時間として、心の中に残り続けてくれることを心から願っています。

## 学校文化をつくるのは生徒たち

今年度、本校では生徒会組織の見直しに伴い、臨時生徒会を開きました。その中で、生徒たち自身が掲げた言葉があります。「自分たちの学校は、自分たちでつくる!」この言葉には、生徒たちの学校生活に対する強い思いが込められています。学校という場所は、毎日学校で生活している生徒一人一人の行動や考え方が積み重なって、学校の雰囲気や文化が生まれていくものです。例えば、体育大会や文化発表会の成功の陰には、生徒たちの主体的な準備や協力があります。また、地域でのボランティア活動や校内での自主的な清掃活動など、生徒たちが自分たちで考え、行動する姿は、本校の大きな誇りでもあります。こうした一つ一つの取り組みが、上峰中学校の学校文化を形づくっているのだと感じています。今回の生徒会組織の改編は、生徒たちのそのような力をさらに生かしていくための取り組みです。学校生活の中で感じたことや課題について、生徒自身が考え、仲間と話し合いながらよりよい学校をつくっていく。そのような経験を積み重ねていくことが、生徒の主体性を育てる大切な機会になると考えています。もちろん、すべてが最初からうまくいくとは限りません。生徒同士の意見がぶつかることもあるでしょうし、思うように進まないこともあるかもしれません。しかし、仲間と対話しながら解決していく経験こそが、生徒たちを大きく成長させます。自分の考えを持ち、仲間と協力しながらよりよい方法を見つけていく力は、これから社会の中で生きていくうえでも大切な力になります。

学校では、生徒が主体的に考え、挑戦することができる環境を大切にしながら、安心して活動できるよう支えていきたいと考えています。生徒たちが掲げた「自分たちの学校は、自分たちでつくる!」という言葉が、単なるスローガンではなく、日々の学校生活の中で実際の姿となっていくことを願っています。そして、その積み重ねが、これからの上峰中学校の学校文化をさらに豊かなものにしていくと信じています。

保護者の皆様にも、こうした本校の取り組みを温かく見守り、応援していただければ幸いです。

## 生徒会による「ヘルメット番号の見直し」の提案について

本校ではこれまで、自転車通学の生徒が使用するヘルメットの後頭部に、生徒個人を識別するための大きな番号シールを貼っていました。この番号は、通学時の安全指導や学校側での確認を目的として設けられていたものです。しかし今年度、生徒会役員から「この番号の表示を見直したい」という提案がありました。生徒会では議案書を作成し、その理由や改善の方向性について話し合いを重ねてきました。そして最終的に、ヘルメット後部の大きな番号表示をなくすことが決定しました。

生徒たちの提案の背景には、通学中に番号が遠くからでも見えてしまうことへの違和感がありました。番号によって個人が特定されやすいのではないかと、また、生徒を番号で識別することに疑問を感じるという意見が出されたのです。こうした視点から、生徒たちは「安全管理の目的は大切にしながらも、必要以上に個人が特定される状況は見直すことができるのではないかと」考えました。生徒会役員が職員会議でこのことについて提案し、その提案を受けて安全面や運用面について検討を行いました。その結果、安全指導や通学管理については別の方法でも十分対応できると判断し、今回の見直しを実施することとしました。

今回の取り組みで大切にしたのは、単に番号をなくすことそのものではありません。自分たちの学校生活の中にある仕組みについて、生徒自身が疑問を持ち、仲間と話し合いながらよりよい方法を考え、学校に提案するという経験です。学校は、生徒にルールを守らせる場所であると同時に、ルールの意味を考える力を育てる場所でもあります。決められたことをそのまま受け入れるだけではなく、「なぜそうなっているのか」「もっとよい方法はないのか」と考えることは、生徒にとって大切な学びになります。今回の生徒会の提案は、そのような主体的な学びの一つの姿だと感じています。仲間と意見を出し合い、よりよい学校生活について考える経験は、これから社会の中で生きていくうえでも大切な力につながっていくはずですよ。

本校では、生徒会活動を通して、生徒が「自分たちの学校は、自分たちでつくる」という意識を育てていくことを大切にしています。今回の取り組みも、その考え方を具体的に表したものの一つです。これからも、生徒たちが自分たちの学校生活をよりよいものにしようと考え、主体的に行動する姿を大切にしながら、教師がその活動を支えていきたいと考えています。

## 一年間のご協力に感謝して

早いもので、今年度も残りわずかとなりました。保護者の皆様には、この一年間、本校の教育活動に温かいご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

本校では学校教育目標である「心豊かにたくましく生きる生徒の育成」の実現に向けて、生徒の主体性を大切にされた学校づくりを進めてまいりました。おかげさまで、授業の中で互いに学び合う姿、学校行事で力を合わせて取り組む姿、地域の中で自ら進んで行動する姿など、さまざまな場面で生徒たちの成長を感じる一年となりました。

生徒たちの成長は、学校だけで実現できるものではありません。日々の家庭での支えや励まし、地域の皆様の温かな見守りがあってこそ、生徒たちは安心して挑戦し、自分らしく成長していくことができます。保護者の皆様のご理解とご協力に、改めて深く感謝申し上げます。

学校にとって何より嬉しい言葉は、保護者の皆様から「この学校でよかった」と感じていただけることです。そして同時に、生徒たち自身が「この学校で学べてよかった」と思える学校であり続けることだと考えています。来年度も、生徒一人一人が仲間と支え合いながら主体的に学び、成長していく学校づくりに取り組んでまいります。今後とも、本校の教育活動への変わらぬご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

